

地域唯一のガソリンスタンド存続奮闘記

杵築市役所 協働のまちづくり課 古庄顕三

1. SS存続プロジェクトに至った経緯

- ・杵築市大田地域（旧大田村）は人口1,100人、面積46.07Km²、高齢化率約55%の小さな山村で、過疎化と高齢化が深刻な課題となっています。杵築市街地から車で30分の距離にある大田地域は、周りを山々に囲まれた盆地で、冬季は気温が0℃を下回ることも珍しくありません。

- ・その住民の生活の基盤となっていたのが地域唯一SSである小関石油でした。小関石油はこれまで自家用車や農業機械への給油や移動手段を持たない高齢者への冬場の灯油配達を行っていました。

- ・地域唯一のガソリンスタンドであった小関石油も長年、夫婦で経営をしてきましたが、お互い80歳を過ぎて高齢であることや後継者もないことを理由に、令和4年6月に地下タンクの使用期限が迫る半年前の令和3年12月末に閉店を予定されていました。

- ・灯油配達を利用していた高齢者からは「配達してくれないと買いに行けない」という心配の声や、多くの燃料を使用する建設業や農業を営む経営者からは「峠を越えて10km以上離れているSSまで給油するか、大型タンクを設置し軽油の確保をしなければならない。どちらにしても不便になる。」という情報を聞いていました。

- ・地域唯一のSSの廃止は地域の産業だけでなく、そこに暮らす人々の生活に大きな影響を与えることが懸念されていました。



2. SSの存続プロジェクトの概要



・令和3年7月、大田ふるさとづくり協議会（以下、協議会）はこの問題を地域課題と捉えていましたが、協議会だけでは解決できないため、商工会、事業承継センター、大分県石油組合、大分石油、杵築市等に要請し「ガソリンスタンドの継続に向けた関係者会議」を開始。

・令和3年11月には協議会の有志5名で「合同会社おおた夢楽（むら）」を設立。

・協議会は地下タンク改修にかかる資金を調達するため、ふるさと納税を利用した「ガバメントクラウドファンディング（以下、G C F）」を実施するなど、行政・地域・民間企業等が一体となって取組み、令和4年2月1日より小関石油から事業承継を行い、「大田SS」として営業を開始。

・これまでと変わらないガソリン・軽油・灯油の販売・配達を行っています。

3. SSの存続危機を認識したタイミング

- ・平成26年度に小関石油は「大分県買物弱者支援事業」を活用し、灯油配達ニーズのある250世帯のうち約100世帯について90ℓの灯油タンクを設置。
- ・配達効率の向上、配達巡回時に安否確認を含む「見守りパトロール」を開始。
- ・その事業が平成28年に経済産業省が発行した「SS過疎地対策ハンドブック」に好事例として掲載。
- ・県はその後も追跡調査をしていたことから、小関石油に後継者がいないことや、地下タンクの更新を迎えることも把握していた。



灯油配達の様子

◆平成30年5月23日（県地域活力応援室）

- ・小関石油の地下タンクの使用期限が残すところ4年となっていたため、今後の対策について、県が招集をかけ、東部振興局、大分石油(株)、杵築市政策推進課、杵築市大田振興課の担当で協議。
- ・継続するのであれば、担い手の確保、運転資金、地下タンクの改修費用の様々な問題があり、地理的不利な立地条件であるため、後継者もいなく、継続はかなり厳しいとの判断であった。
- ・翌月の6月まで2回の協議を行いました。が、効果的なアイデアは生まれず、様子を見守るとのことでのこの会議は終了した。

市街地でもSSが
閉鎖されている。
過疎地のSSの閉
鎖は自然的



4. 地域の現状把握

・令和2年10月、小関石油から「地下タンクの更新を迎える半年前の令和3年12月末に閉店を予定している」と直接話を聞く。

◆令和2年10月16日（おおた青年会、大分石油(株)、大田振興課の三者協議）

- ・地元議員でもある、おおた青年会の会長から、「何とか存続する方法はないか？」と相談。
- ・当初はおおた青年会、大分石油(株)、大田振興課の3名で協議開始。

◆令和2年10月21日（民生児童委員に調査依頼）

- ・現状を把握するため、民生児童委員で組織されている「あんしん生活応援隊」に高齢者世帯へ灯油の購入先調査を依頼【調査結果】

実施訪問世帯69世帯のうち灯油を利用している世帯57世帯

- | | |
|----------------------|-----------|
| ①小関石油からの配達利用 | 33世帯(58%) |
| ②近隣に住む息子や娘が休日等に来てくれる | 14世帯(25%) |
| ③豊後高田市の業者（ガス）からの配達 | 4世帯(7%) |
| ④自分で買いに行く | 6世帯(10%) |

・民生児童委員が調査時に「小関石油が無くなったらどうしますか？」との質問に対して、ほとんどの高齢者からは「無くなったら困る」との意見であった。

・また、地元の建設業や福祉施設、農業を営む経営者に直接聞いたところ、「12～15km以上離れている最寄りのSSまで給油しに行くか、大きなタンクを設置し軽油の確保をしなければならない。どちらにしても効率が悪くなり不便になる。」という意見であった。



あんしん応援隊による見守訪問

地場で働いている事業所や高齢者世帯は深刻な問題



5. 地域課題を解決する地域住民団体＝住民自治協議会

- ・住民自治協議会とは、人口減少・少子高齢化に対応するため、概ね小学校区域で、地域住民と様々な機能をもった団体が、参画・協力して地域課題を解決する地縁型の地域住民団体です。
- ・大田地域の住民自治協議会である「大田ふるさとづくり協議会」は平成22年4月に設立したものの、これまでの活動として、交流を目的としたイベントが中心であり、広報についてもホームページの更新もなく、広報誌は年に2回発行と、活動内容の情報発信が乏しく、地域への認知も浸透していなかったのが現状。
- ・地域の困りごとを協議会で協議し、可能な限りその課題を解決することが協議会の設置目的であったため、まずは、地域の認知度を向上させるため、広報誌を月1回発行し、全戸配布（500戸）して頂くよう依頼した。
- ・令和3年1月15日発行の広報誌については、「小関石油が12月末に閉店。小関石油を利用する世帯が200戸以上ない限り、事業承継は困難」と掲載し、利用を促すとともに、地域に危機感を共有した。

○大田ふるさとづくり協議会

【所在地】大分県杵築市大田石丸445（大田中央公民館）【電話番号】0978-52-3111

【役員会】会長1名、副会長2名、専門部長2名、副部長2名 計 7名

【理事会】役員会+理事20名 計27名

【所属団体】区長会、老人クラブ連合会、民生・児童委員会、青少年健全育成協議会、スポーツ協会、商工会、大田小PTA、大田小学校、大田こども園、杵築市職員大田会、杵築市防災士協議会、おおた青年会など

【協議会の活動】

これまでの協議会は、地域交流を目的としたイベントやお祝い事業などを主としており、地域の課題の解決に取り組む組織ではなかった。しかしながら、平成31年から開始した「高齢者見守り事業」を機に、地域の様々な課題が見えてきた。その課題に対して「大田地域見守りネットワーク事業」や高齢者宅の草刈りや買物などを支援する「おおた地域お助け合い事業」、大雨や災害時に要援護者に対して連絡を取り合う「災害時における地域連絡体制」の事業も展開している。

「消滅危機のガソリンスタンドの存続プロジェクト」が成功したことにより、その成功事例をもとに、現在は移住人口や交流人口の増加を図るため「移住・定住シンポジウム」を開催するなど、イベント中心から地域の課題解決に向けた活動を行っている。

まずは住民への
情報共有をする
ことが大切



6. 官・民・企業が一体となった連携会議

・経営状況、法人形態及び設立、資金の調達、従業員の確保及び雇用条件、揮発油販売業の申請、賃貸契約、施設の改修、国の補助金申請等、事業継承における様々な課題があり、到底協議会だけでは解決出来ないことから、令和3年6月に商工会大田支所に相談。

・商工会から大分県事業継承・引継ぎ支援事業の提案があり、令和3年7月12日から令和4年1月6日まで「ガソリンスタンドの継続に向けた関係者会議」を5回実施。一つ一つの課題に対して情報を共有し、その課題を各専門分野ごとで解決してきた。

（関係協力団体）

大分県事業継承・引継ぎ支援センター、杵築市商工会大田支所、大分石油(株)、大分県石油商業組合、小関石油、おおた青年会、杵築市社会福祉協議会大田窓口、杵築市役所大田振興課、大田ふるさとづくり協議会（9団体）



G Sの継続に向けた関係者会議

（事業継承までの課題に対する対応）

- | | |
|----------------|---------------------------------|
| (1) 経営診断 | 引継ぎ支援センター・商工会・大分石油・大田振興課 |
| (2) 法人の形態 | 引継ぎ支援センター・商工会 |
| (3) 法人の設立 | 協議会・大田振興課・引継ぎ支援センター・商工会 |
| (4) 資金の調達 | 協議会・おおた青年会（議員）・大分石油・大田振興課 |
| (5) 人員の確保 | 大田振興課・社協大田 |
| (6) 雇用条件 | 引継ぎ支援センター・商工会・大田振興課（おおた夢楽） |
| (7) 灯油タンク設置調査 | おおた青年会・大田振興課（おおた夢楽） |
| (8) 揮発油販売業の申請 | 大分県石油商業組合・大田振興課（おおた夢楽） |
| (9) 賃貸契約、施設の点検 | 大分石油・小関石油・大田振興課（おおた夢楽） |
| (10) 事業譲渡契約 | 引継ぎ支援センター・商工会・大分石油・大田振興課（おおた夢楽） |
| (11) 消防計画作成等 | 大分石油 |
| (12) 国の補助金申請等 | 大分石油・大分県石油商業組合・大田振興課（おおた夢楽） |
| (13) 施設更新の対応 | 大分石油・大田振興課（おおた夢楽） |

専門家の協力がないければ先には進まない



7. SSの継続に向けた関係者会議を開始

◆令和3年7月12日（第1回GSの継続に向けた関係者会議）

・杵築市商工会大田支所の主導のもと、関係する団体に協力依頼を行い、“大分県事業継承・引継ぎ支援事業”によりSSの継続に向けた関係者会議を開始

○主な協議内容

- (1) 法人の設立
- (2) 人材の確保（乙種四類を取得者）
- (3) 運転資金の確保など

現在の小関石油の状況で経営が可能なのか？との質問が出たため、これまでのデータを基に今後の人口減少を見込んだ詳細な事業計画を次回から参加する中小企業診断士に診断して頂くこととした。

◆令和3年8月10日（第2回GSの継続に向けた関係者会議）

・中小企業診断士より「10年間の時限経営であれば、初年度から3年目に内部留保を蓄えることができれば、経営は可能」と診断が示された。

・必要な資金は以下のとおり

- (1) 法人設立の定款等の作成費用40万円
- (2) 開業に必要な経費25万円
- (3) 当初の運転資金135万円
- (4) 地下タンクの改修費用500万円 計700万円

・税理士からは、まずは以下の4事項について9月末までに協議会で決定するよう説明があった。

- (1) 会社形態は株式会社又は合同会社？
- (2) 誰が経営責任者となるか？
- (3) 経理は誰がするのか？
- (4) 資金調達はどのようにして行うのか？

残り4ヶ月でこの問題をクリアして承継出来るか心配

協議会に委ねられた協議事項

①経営者の選任

②資金調達

③従業員の確保



8. 課題① 経営者の選任(その1)

8月中旬～9月上旬の間、数人の適切な人物に話を持ちかけたが、当然断れる日々が続く・・・

◆令和3年9月15日（地元事業者説明会）

・小関石油を利用している事業者や今後利用して頂きたい事業者19社にこれまでの経緯と今後の計画について説明会を開催。事業者からはこの説明会が遅いことの意見を皮切りに、資金調達や販売価格、サービス面等、計画の甘さに対して非常に厳しい意見が寄せられた。また、地域住民がこんなに困っているのに市役所は何をしているのか？と批判する意見もあった。

◆令和3年9月21日（協議会役員会）

・協議会役員会でこのプロジェクトの方向性について協議。地元事業者説明会の反応から「ここまでしてプロジェクトを続ける必要はあるのか？」「協議会がSSを存続するために、ここまでリスクを負ってすべきものなのか？」など、役員会の中でも意見が分かれ、この日でプロジェクト終了も覚悟していたが、継続の可否は理事会で諮ることとなった。

SSを継承するメリット

・身近なSSが無くなることに困っている人から感謝される。

ここまでよく協議してくれた。プロジェクト打ち切りも仕方ない。

SSを継承するデメリット

- ・店舗スペースは狭いため、セルフ導入や洗車機を設置することが出来ない。
- ・タイヤ交換や車検などの付帯事業は地域の事業者と競合するため出来ない
- ・運転資金や改修費用などで金融機関からの多額の融資を受けなければならない。
- ・他店舗に比べ1日あたりの給油量が少ないため、1ℓあたりの単価が高くなる。
- ・今後の人口減少により、更に経営が困難となる見込み。
- ・小関石油が廃業して困るのは灯油を使用している交通手段のない高齢者と軽油を使用する地元の建設業や大規模農家等であり、交通手段のある家庭では大きな影響はない。



9. 課題① 経営者の選任(その2)

◆令和3年9月24日（協議会理事会）

- ・未だS Sを引き継ぐ経営者が見つからない状況のまま、協議会理事会で会長がこれまでの経緯と今後の方針を説明。
- ・説明後、一部の役員から「地域の課題を解決するのが協議会の目的であり、我々が担うことが本来の形でないか、ここは、協議会の会長が法人の代表となって我々で合同会社を設立することが出来ないか」と提言。また、他の役員からは「会長一人に押し付けはしません。ここにいる全員が協力します」との意見に、会長は少し時間を置き、「S Sがこの地域から無くなると生活に困ることは十分に理解している。ここにいる皆さんが協力していただき、何も出来ないこの私でよければ引き受けます。」と承諾した。
- ・協議会会長が法人の代表となり協議会主体として支援していく方針を理事会で可決した。

◆令和3年10月5日（協議会役員会）

- ・会社構成として代表社員の吉廣会長と業務執行社員3～4名が主に経営に携わることとした。会社名を「合同会社おおた夢楽（むら）」と名称を決定。

◆令和3年11月26日（法人設立）

代表社員を吉廣和男とし、中山田秀俊、小野本良二、小関隆範、古庄顕三の5人で合同会社おおた夢楽を設立。



10. 課題② 資金調達(その1)

◆令和3年10月15日（大田振興課とふるさと納税担当課協議）

・ふるさと納税担当者に相談したところ、「この地域活動に共感する人は必ずいますよ」と「自治体が行うガバメントクラウドファンディング（以下G C F）」の提案を持ちかけられる。

・杵築市では初の取組みとなるため、以下の具体的な内容を協議した。

- ・必ず目標金額に達成しなければならないため、大口の地元出身の方に事前をお願いすること
- ・政策調整会議（副市長、総務課長、企画財政課長）で提案し、承認を受けること
- ・11月下旬に開始するため、G C FのHPの写真や文章を短時間で作成すること
- ・大田地域で活動している著名人にSNSに投稿のお願いをしてもらうこと。など

◆令和3年10月16日（地域出身者へのお願い）

・毎年、杵築市に多額のふるさと納税をしている東京都在住（大田地域出身）の実業家の方が杵築市に來ているという情報を聞き、地元議員と大分事務所に伺い、現状を説明したところ、「是非、協力させていただきたい」と承諾を得られた。歓談の中で本人が気がかりなことも話をさせていただき、その問題もいずれは解決を行わなければならないと思っていた。

◆令和3年10月26日（G C Fを実施することの承認）

目標達成の見通しが出来たため、政策調整会議で地下タンク改修にかかる経費をG C Fで資金を募ることの説明を行い、承認を受ける。

◆令和3年11月17日（大分石油からの寄附金の申出）

・大分石油(株)から企業版ふるさと納税の説明依頼があり、所管課の担当者と説明を行った。
・後日、大分石油(株)から杵築市へ「大田地域のSSの存続」を目的とした企業版ふるさと納税の寄付があった。

◆令和3年12月20日（民間事業者からの資金調達）

・地元出身で東京でIT関連の会社を営んでいる友人に相談したところ、「過疎地域にはガソリンスタンドは不可欠、初期の運営資金は遠慮なく協力させていただく」という言葉もあったが、経営が甘んじないよう無利子の借入金と言う形で合意し、12月末に契約を結び融資を受けた。

11. 課題② 資金調達(その2)

消滅危機のガソリンスタンド存続プロジェクト～住民が地域の生活基盤を守る～

カテゴリー: まちづくり



寄付金額

8,430,888円

210.7%

目標金額: 4,000,000円

達成率
210.7%

支援人数
240人

終了まで
受付終了

大分県杵築市（おおいたけん きつきし）

地域の人や寄附
をして頂いた全
員に感謝！



・消滅危機のガソリンスタンド存続プロジェクトとして、更新期限を迎える地下タンクの改修費をガバメントクラウドファンディング（以下、GCF）（※1）により令和3年11月25日から令和4年2月23日の90日間で募集。

・新聞やニュースで取り上げてくれたことや、ふるさと協議会のメンバーや地域の方々それぞれが友人等へ呼びかけを行ってくれたことより、目標額4,000,000円に対し、延べ240名の方から目標額2倍を上回る8,430,888円の寄附の支援があった。

・寄附金のうち、返礼品やその送料、運営委託料等、GCF募集に要した経費を除いた6,210,913円がSSを経営している合同会社おおた夢楽に大田地域活性化補助金として交付され、地下タンク内面ライニング工事をはじめ、老朽化が著しいSS施設の整備を行うことが出来た。

（※1）ガバメントクラウドファンディング（GCF）とは、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」がふるさと納税制度を活用して行うクラウドファンディングです。自治体が抱える問題解決のため、ふるさと納税の寄附金の「使い道」をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄附を募る仕組みです。

12. 課題③ 従業員の確保

- ・ S S 従業員には「危険物取扱者乙種四類」の取得者が必要であった。
- ・ 杵築市大田横岳自然公園キャンプ場の管理人として勤めていた K 氏（60代前半）の前職が S S に勤めていたことを知っていた。また、そのキャンプ場も令和3年9月から指定管理者による管理へと移行が決まっていたため、開業予定の半年前から K 氏に「地域のために協力していただけないか？」とお願いし続けていた。
- ・ また、そのキャンプ場に勤めていた E 氏（50代後半）も S S の経験はないが、会社で乙種四類を所持していることを K 氏から聞き、同じくお願いに行き、両者から内々の承諾を得ていた。
- ・ しかしながら、週6日、7：30～18：30の営業であれば、労働時間が超過してしまうため、さらに人員が必要となっていたところ、11月に65歳以上の男性の U ターン者が月1回行っている「うどん道場」で社会福祉協議会の職員がガソリンスタンドの状況を説明したところ、乙種四類の免許を持った3名の協力者があったことから、計5名のスタッフで対応出来るようになった。



給油するスタッフ



灯油の配達

これで、準備
は整った！



13. 大田SSがスタート

◆令和4年1月6日（第5回GSの継続に向けた関係者会議）

・社労士を交え、雇用契約書の内容について説明を受ける。今後の県の事業や事務所改装のスケジュールの確認、開業式の内容、小関石油との賃貸契約や事業譲渡契約に関する協議を行った。

◆令和4年1月14日～1月31日

・揮発油販売業の許可が下りたと県石油商業組合から連絡。17日～20日にかけて事務所の改装、19日～各家庭に灯油タンクの設置及び契約、24日インターネット、電話工事、26日～従業員の事前研修、28日小関石油との事業譲渡契約締結、29日簡易トイレ、パソコン等の設置、必要な備品、事務用品の調達、31日に小関石油が閉店した。

◆令和4年2月1日

・合同会社おおた夢楽が小関石油から事業を承継し、大田SSとしてスタートした。開業式はコロナ禍の影響で限られた関係者のみの案内であったが、来賓祝辞や店舗の引継ぎ、新店舗名の除幕、小関夫妻への花束贈呈など心温まる式典となりました。

・また、これまでご尽力いただいた大分石油から「大田地域のSSが円滑に運営できるよう」と企業版ふるさと納税の寄附目録の贈呈式もありました。



開業式での集合写真



小関石油夫妻



14. トラブル続きのスタートと費用算定の誤算

	(計画額)	(実績額)
①定款等の作成費用	40万円	22万円
②開業に必要な経費	25万円	113万円
③開業に係る備品等（県補助事業）	－万円	287万円
④当初必要な運転資金	135万円	300万円
⑤その他 S S 設備の更新費用	－万円	764万円
⑥地下タンクの改修費用	500万円	554万円
計	700万円	2,040万円



- ・灯油配達に係る家庭用の灯油タンクの追加分やホームローリー、パソコン、エアコン、簡易トイレ等については、「大分県小規模集落等支援事業」の補助を受け整備した。
- ・開業から直ぐに、店舗のブレーカが落ちたり、灯油の給油機のメータが壊れたり、配送用の軽トラックは25年以上経過のため修理を繰り返し、トラブル続きの連続であった。
- ・組織の構築や資金調達を最優先としていたため、地下タンク以外の設備の更新費用の算出まで至らなかったことが大きな反省となった。

①定款の作成費用：法人登記一式 **22万円**

②開業に必要な経費：**113万円** 店舗内装工事、廃棄物処理費、事務室ドア修繕、屋内配線工事
電気切替工事、CATV加入金、水道組合加入料、揮発油分析委託料、登録免許税
県石油販売協同組合出資金、事務室用イス・机、従業員作業服、消火器8本、タイヤ修繕料など

③開業に係る備品等（県補助事業）：287万円 家庭用オイルタンク56台、ホームローリー（軽油）
簡易トイレ、エアコン、照明、洗濯機、パソコン、プリンター、FAX電話機

④当初必要な運転資金：**300万円**

⑤その他 S S 設備の更新費用：**764万円** 計量機2基、POS機器システム、配送用ローリー車（灯油）
配送用軽トラック（軽油）、給油機（軽油）接続工事など

⑥地下タンク（2基）の改修費用：**554万円**

経費がこんなにか
かると判っていれ
ば承継は行ってい
ない



15. 情報発信によるマスコミへの対応

・ G C F 開始後、地域の実情を発信するため、新聞や地元放送局等のマスコミの取材に対しては積極的に代表や役員、関係者が対応するようにした。

【テレビ】

- ・ BSテレビ東京 「タタムなんてもったいない！」（R4.9.4）
- ・ Eテレ 「財前直見の暮らし彩彩2022夏」（R4.9.24）

【インターネット】

- ・ gogo.gs（ゴーゴージェエス）「大分県杵築市 唯一SS消滅のピンチに住民が取った方法」（R4.5.13）
- ・ relay（リレイ）「住民を見守る、地区唯一のコミュニティステーション なくてはならない場所を地域全体で承継」（R4.5.20）
- ・ 大分県事業承継・引継ぎセンター 「事業承継支援事例（2022年版・2021年度版）」（R5.1.6）

【新聞】

- ・ 大分合同新聞「G Sの灯 守ろう 住民が会社設立 唯一の店舗、経営承継 C Fで資金調達」（R3.12.4）
- ・ ぜんせき 「過疎地 S S 継承へ住民が新会社 C Fで設備更新資金公募 石商、行政も支援」（R3.12.17）
- ・ 読売新聞 「地域唯一のG S 住民継承 杵築大田」（R4.2.1）
- ・ 大分合同新聞「大田唯一のG S再オープン 住民経営「拠点目指す」（R4.2.2）
- ・ 毎日新聞 「地域唯一、G Sの灯守る 高齢化進む山あい 80代夫婦から引き継ぐ」（R3.2.5）
- ・ 大分合同新聞「返礼品 心をこめて ハーバリウム、財前さん直伝」（R4.8.7）
- ・ ぜんせき 「大分県杵築市 おおた夢楽大田 S S 住民組織が S S を継承 供給維持へ奮闘（R4.8.10）
- ・ ぜんせき 「エネ庁・過疎地対策ハンドブック S S・自治体・住民連携が鍵」（R4.8.10）
- ・ 中日新聞 「大分・山あいの給油所 ふるさと納税活用し存続（R4.9.14）
- ・ 岩手日報 「住民一丸 山あい給油所 ふるさと納税活用 会社設立し存続」（R4.9.14）
- ・ 佐賀新聞 「山あい給油所、寄附で存続」（R4.9.14）
- ・ 秋田魁新聞 「山あい給油所、寄附で存続」（R4.9.15）
- ・ 西日本新聞 「山あいの給油所後継者なく廃業寸前 ふるさと納税で存続 大事なインフラ守れた」（R4.9.16）
- ・ 中国新聞 「給油所寄附募り存続 大分 山間部住民らが経営へ」（R4.9.18）
- ・ 大分合同新聞「地域唯一のガソリンスタンド おおた夢楽1周年」（R5.2.25）
- ・ 大分建設新聞「平成建設に感謝状 旧大田村の S S が記念式典」（R5.3.3）

【その他】

- ・ 経済産業省資源エネルギー庁 S S 過疎地ハンドブック（R4.6.3）

マスコミの協
力に感謝！



16. ブロンズ像修復プロジェクト

◆令和4年3月13・14日

・大田庁舎前にあるブロンズ像の修復作業を行った。設置後24年が過ぎ長年の風雨にさらされ劣化の進む像を、住民の手でよみがえらせようと企画したもので、大田ふるさとづくり協議会の会員ら約20人が参加した。

・像は女性の立像で高さは約1.75メートルあり、保存修復家の篠崎未来さんと（福岡市）大分大学教育学部の田中修二教授（美術史）の指導で行った。

・13日は洗剤を使い、汚れや剥げた塗料を除去し、14日にさび防止のワックスを塗り仕上げました。像は旧大田村役場の新庁舎完成を記念して同村出身の実業家、サンヨーフーズ（東京）の長谷公治会長が平成10年に寄贈されたもので、同じく村出身の東京芸術大学卒業の彫刻家、小川誠さん（故人）が制作した像です。

約束が守れて
よかった。



◆令和5年3月7日

・年1回の定期メンテナンスに大分訪問の合間に長谷会長が訪れ、メンバーに感謝の言葉を述べていました。



17. GCF返礼品プロジェクト

- ・ GCFの募集した当初、大分の番組を通じて“田舎暮らし”を情報発信している女優の財前直見さんに「消滅危機のガソリンスタンド存続プロジェクト」について、自身のオフィシャルSNSにGCFの情報発信をして頂いた経緯もあり、今回の返礼品制作についても相談。
- ・ 田舎暮らしのレシピ帖「直見工房」の中で紹介されている“ハーバリウム”の制作指導を依頼したところ承諾されたことから、大田ふるさとづくり協議会と合同会社おおた夢楽の三者で行うことが実現しました。

◆令和4年年7月14日

大田中央公民館2階ホールで財前直見さんを講師として迎え、GCFで支援のあった240名のうち“返礼品なし”と選択した方139名分と、これまでお世話になった方々に対し、ハーバリウムの制作を行いました。

8月下旬にお礼状と協議会の広報誌、地域のパンフレット等を添えて返礼品を発送をしました。

この様子は8月7日に大分合同新聞の地方欄に掲載されるほか、9月29日のEテレ「財前直見の暮らし彩2022夏」で放送されました。

協力して頂いた方がテレビに放送されてよかった



18. 営業1年目の大田SSの給油状況

・これまで地域にSSを存続させるため、役員や協議会のメンバーが個別に訪問し呼びかけを行ったため、給油状況は前年度と比較し増加した。中でも地域で土木工事を請け負った地域外の業者が、これまでの活動に共感し協力していただいたお陰で軽油は大きく増加した。

・しかしながら、開業準備や設備の修繕、譲渡対価の支払いなどの経費があったため、収支利益はほぼ“ゼロ”に近い状況であった。

今後も燃料を使用する地域人口も減少していることから、さらなる営業努力が必要となります。

レギュラー

115%
UP

全 体

134%
UP

軽 油

186%
UP

灯 油

118%
UP

売上は上がっても
利益はほぼ“ゼロ”
何か対策を立てな
いと・・・



19. 合同会社おおた夢楽の今後の取組み

- ・ S S の経営は、役員の中では当初から10年と定めています。地域の大きな人口減少とカーボンニュートラルの影響で需要はさらに低下することとなるため、8年目以降は、灯油から電気・ガスへの転換、大規模農家についてはタンクの設置などを働きかけていく方針です。
- ・ それまで安定的な経営が維持できるよう、開業資金の融資を頂いた I T 関連会社から支援をいただき、リペア P C のレンタル代理店契約を交わし、6月から協同で営業活動を行っています。昨年8月からはスズメバチの駆除も業務としてサービスも提供しています。
- ・ 令和5年度からは協議会に加入し、企画調整部の部会員として、移住者との交流イベントや空家バンクの登録推進、田んぼと星空の映画館、地域祭事の支援など、そのほか地域の活力に繋がる活動を行っています。
- ・ 今後、S S を持続することは非常に厳しいと思われませんが、地域の人々や賛同してくれる企業の協力により、地域唯一の S S をこれからも守って行きたいと思っています。



新しいスタイルで
新しいPC体験

月額5000円

レンタルPC
合同会社おおた夢楽

お客様に速い安いを提供し、
ビジネスの成長に貢献する。

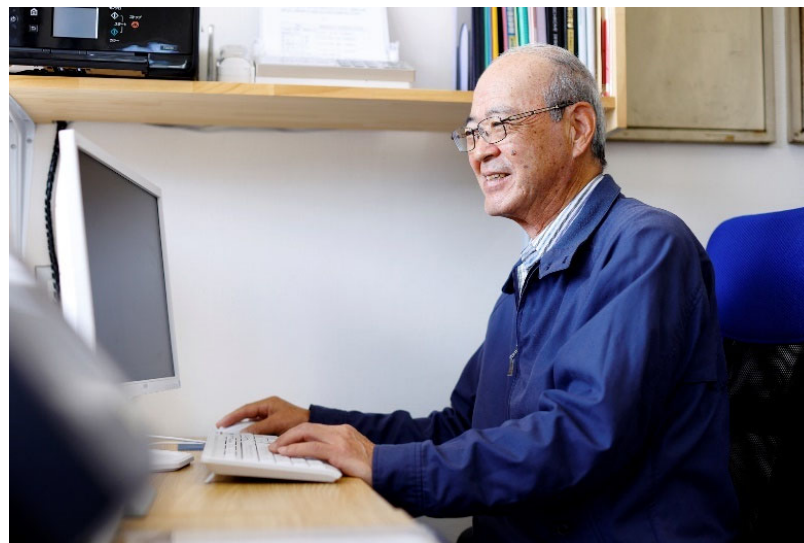
当社は、Panasonic レンタポート の機種で
2つのプランをご用意しています。

12インチ	14インチ
メーカー: panasonic OS: Windows10Pro (64bit) CPU: Intel Core i5以上 メモリ: 16G ストレージ: SSD: 500G 重量: 1.2kg (電源付) インターフェース HDMI出力端子、マイク端子、 オーディオ出力端子、USB2.0 ポート、USB3.0ポート、 SDメモリーカードスロット	メーカー: panasonic OS: Windows10Pro (64bit) CPU: Intel Core i5以上 メモリ: 16G ストレージ: SSD: 500G 重量: 1.2kg (電源付) インターフェース HDMI出力端子、マイク端子、 オーディオ出力端子、USB2.0 ポート、USB3.0ポート、 SDメモリーカードスロット
¥5,000	¥5,000

※料金は全て税別価格となります。

お問い合わせ: 0974-52-3940
サイト: <https://www.rental-pc.shop/>
所在地: 大分県杵築市大田町2603-1
営業時間: 7:30 ~ 18:00 (日曜日定休)

合同会社おおた夢楽



ご清聴ありがとう
ございました。